

# ニュース こう見る

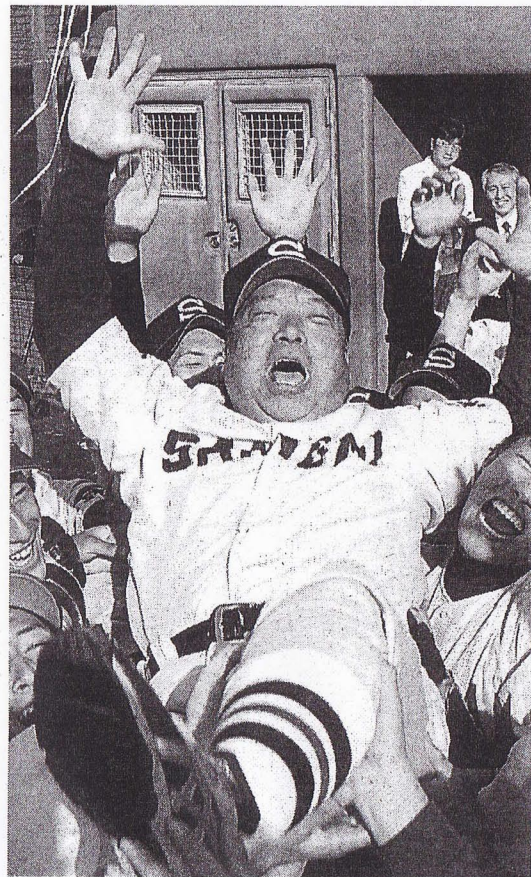
## 時のひと

関西六大学野球リーグで15季ぶりに優勝した京都産業大監督

かつむら のりひこ  
勝村 法彦さん(55)

リーグ史上初の優勝決定戦を制して喜びに沸く選手を見詰めながら、大きく息をついた。「長かったです。今季は何度も厳しい状況に立たされたが、4年生が中心になって引つ張ってくれた。感謝しています」。プロ野球オリックスの中継ぎエース、平野佳寿投手らを擁した2005年春以来の優勝に目を潤ませた。

01年秋の監督就任後、平野投手をはじめ高校時代に目立たなかった選手を育て、5度目の優勝に導いた。成長に大切なのは「素直さと、諦めずに向上心を持つ姿勢」。さらに、常に体のバランスを整えて試合に臨むコンディショニングの重要性を説く。「自分の体を知ることが故障を減らし、技術の向上に結びつく」といふ思いからだ。



平安高（現龍谷大平安）から京都産業大、社会人の丸勝に進んだが、左足首を痛めたこともあり、満足な現役生活を送れなかった。「けがをした人や、控え選手の気持ちがよく分かる」。自らと同じく故障で苦しんだ平島昇汰主将と対話を重ね、「諦めない、前向きな姿勢が素晴らしい」という主将を精神的支柱に覇権を取り戻した。

平安高元監督の故中村雅彦氏が始めた中学生対象の講習会での指導役を受け継ぎ、正しい体の使い方を教える活動に力を入れる。楽しみは「卒業後も野球を続ける教え子の活躍を見ることかな」と言うほどの野球好き。次の目標は関西地区大学選手権を勝ち抜いての明治神宮大会初出場だ。妻、長女とともに宇治市に住む。（内川和則）